

平成30年度第1回  
佐世保市総合計画審議会  
会議要旨

【日 時】 平成30年6月26日(火) 9:30～11:25

【場 所】 佐世保市役所本庁舎5階 庁議室

会 次 第

1. 開会

2. 政策経営課長挨拶

3. 議題

【 報告事項 】

(1) 基本構想（中間素案）について

【 審議事項 】

(2) 次期総合計画における官民連携及び基本計画について

(3) 社会の状態の好転を目指すターゲットの設定について

4. その他

5. 閉会

○出席委員 14名

欠席委員 6名

【資料】

- ・資料1 基本構想（中間素案）について
- ・資料2 次期総合計画における官民連携及び基本計画について

## 会議要旨

1. 開会
2. 政策経営課長挨拶  
審議会の進め方、本日の審議会の趣旨の説明
3. 議題
  - (1) 基本構想（中間素案）について

～ 事務局より説明 ～

### 【木村会長】

「基本構想（中間素案）」について、不明な点や質問はないか。

### 【西岡委員】

将来像の中で、4つの都市像のひとつとして「西九州を牽引する中心都市」と表現している。

前回、「効率都市」という表現が分かりにくいという指摘を受けて、「中心都市」という言葉にしたということだ。

しかし、圏域を構成する団体の皆さんの気持ちを察すると、「佐世保が中心」と佐世保市自らが唱えたときに、どのような気持ちがするだろうか。もうちょっと抑えた表現がよいのではないか。

たしかに、本市が最大都市であるのは紛れもない事実だが、だからこそ自らを表現するときはこれを抑えるのが、望まれるのでは。わたし自身いま良いアイデア・表現を持っているわけではないのだが「本市が有するものを使いながら、周辺地域に貢献していく」等、中心だからこそ周囲に貢献していくのだということを匂わせるような表現を考えたらどうだろうか。

### 【中尾課長】

「中心都市」というのは、総務省が掲げる「連携中枢都市圏構想」の中で用いられている制度上の名称であり、そのことについては、一定程度、近隣市町村にもご理解いただいていると思う。また、ここで言いたいのは「佐世保が中心地だ」ということではない。西九州都市圏においては「コンパクト＋ネットワーク」を目指すということ、つまり各自治体がフルセットの行政を個別で行うというのは効率が悪いため、各自治体で役割分担させながら集約を図り、これをネットワークでつないでいくという連携中枢都市圏構想の考え方がある。これをひとつの都市像として求めていくというのがここで言いたいことであるが、委員のご意見を受け、もう少し検討してみたいと思う。

**【池田委員】**

都市像のひとつとして「育み、学び、認めあう、人材育成都市」という表現がされている。

おそらく「子育て支援」が念頭にあると思われるが、わたしにはどうも「子育て支援」と「人材育成」のイメージが一致しない。もちろん子どもは将来的には社会の大事な人材となっていく。しかし、例えば会社であれば、「会社にとって役に立つ人材育成」や、佐世保市であれば「佐世保市にとって役に立つ人材育成」といったように感じられて、「主役が子どもである」という視点が感じられない。「子どもが幸せに健康に育っていく」というイメージとは少し異なるように思うが、いかがか。

**【宿利係長】**

「育み、学び、認めあう、人材育成都市」という都市像は、「子育て」と「教育」の2つの視点からご議論いただいていたものであり、「子育て支援」の質と「教育」の質を高めていくことを目指すというものである。また、「人材」を「人財」、つまり宝として育てていくという思いを込めた都市像でもある。

**【池田委員】**

了解した。そのような思いがあるのであれば、「学力、体力、豊かな心、共感力等の育成に力を入れて取り組むことを重視する都市像」のうち、「学力」を「知力」と表現を替えてみると、思いが共通するのかなとも思う。

**【木村会長】**

先程の説明にもあったが、「人材」は「人財」に替えるのか。

**【宿利係長】**

表現については、庁内でも意見が出ているところなので調整したい。

議題(2) 次期総合計画における官民連携及び基本計画について

～ 事務局より説明 ～

**【木村会長】**

「次期総合計画における官民連携及び基本計画」について、不明な点や質問はないか。

**【長谷川委員】**

総合計画審議会の意見と、施策ごとにおける審議会等の意見との乖離がないよう、審議会等が出た意見については、総合計画審議会でもご提示いただくようお願いしたい。

【中尾課長】

その点については、双方向となるよう配慮したい。つまり、総合計画審議会が出た意見については施策ごとにおける審議会等に伝え、施策ごとにおける審議会等が出た意見についても、総合計画審議会にお伝えするようにしたい。

【木村会長】

それでは、意見をまとめる。

長谷川委員のほうから、総合計画審議会の意見と、施策ごとにおける審議会等の意見との乖離がないようにとのご提言があった。

また、事務局の説明の中で、次期総合計画においては、これまでともすれば形骸化しがちであった市民参加・市民協働を、民間から意見聴取し施策に組み入れることで実質化するということであった。

これらのことについては、委員のみなさんもお異論ないところだと思う。

このような方向性をもって、今後さらに庁内で調整を進めてもらいたいということ、本審議会の意見としたいと思うが、よろしいか。

～ 各委員、異議なし ～

【木村会長】

それでは、そのようにさせていただく。

議題(3) 社会の状態の好転を目指すターゲットの設定について

【木村会長】

議題(3)「社会の状態の好転を目指すターゲットの設定について」に移る。

次期総合計画において、政策は部局ごとに設定され、その中で「部局の使命」とともに「社会の状態の好転を目指すターゲット」が設定される。

本日はその「社会の状態の好転を目指すターゲット」について、分野ごとに分かれて45分間の意見交換を行い、最後に、各グループで分野ごとの意見をとりまとめて発表してもらいたい。

それでは、後方に用意されている座席に分かれ、意見交換をお願いしたい。

～ 45分間の意見交換 ～

議題：社会の状態の好転を目指すターゲットの設定について  
(経済分野・人材分野・市民生活分野・都市基盤分野)

【木村会長】

それでは、各グループでまとめられた意見を伺う。

○経済分野

【馬郡副会長】

なかなか多岐にわたる分野であった。

まずは、人材確保に関して、苦勞している業種も多いと思われることから、外国人雇用も含めてこれから考えていく必要がある。そのためには、住環境等の都市基盤を整えていくことも大切だろう。

また、特に一次産業に対してだが、「地域ブランド化」を進めていったらどうかという意見があった。地産池消も含めて、「ここだけ」という魅力を発信できるような「ブランド化」が大切だ。

観光については、「観光入込客数の伸び率」を経年推移だけで判断するのではなく、他都市と比較してどうかという視点をもつことで施策も変わっていくと思う。また、ホテルの数が少ないことや家族型の対応ができていないということが、観光入込客数に影響しているのではないか。市郊外では対応可能だが、市街地についてはそこまで充実していないという意見があった。

経済分野全体に対してであるが、民間企業では、「設備投資して、売り上げがあつて、もうけが出る」という短期で勝負している面がある。民間企業も「中期計画」などを立てることがあるが、長くても3年程度であり、これらの現状も踏まえて、行政も考えていかなければならないのではないか。10年後のあるべき姿も大事だが、短期・中期・長期といった分け方で計画をみていく必要がある。

他の分野もそうであろうが、とくに経済分野においては、AIやIoT等によって、大きく環境が変わってくる。「人材が足りない」といわれているが、「人材がいない」という時代がすぐそこまできている。そのような時代の推移もみながら、計画を考えていかなければならないと思う。

○人材分野

【田中委員】

人材分野については、ターゲットとなるものを数値で置くということがなかなか難しいという意見があった。

すでに行政のほうでは、様々な計画が策定されているが、サービスを受ける市民からすれば、それを知らない。様々な計画・サービスにも関わらず、それに対する市民の満足度が必ずしも一致していない。例えば、本市は待機児童ゼロということだが、行きたい保育園に行けているかということと実際は違っているという問題がある。行政がそれぞれ行っているサービスがある中、それを受け取っている市民からすれば必ずしもそれに満足しているかということ、そうではない。

また、「人材育成」というと、「このように育てなさい」と言われているような感覚がある。少しでも育成方針からずれると、「ちょっと違うのかな」と保護者等が悩んでしまう。「自然と子どもが育ちやすい」、「親が子育てしやすい」というような

考えにシフトできないか。

「子育て支援」については、もう少し子育て真っ最中の「母親」に対して視点を向けてもよいのではないか。どうしても「子」育て支援だけに視点が行き過ぎているように思えるという意見があった。また、市民全体・地域全体で子育てを行っていく取組みが必要だ。日本の子どもたちは自己肯定感が低いので、学力・体力といった具体的な数値ではなくて、数値化は難しいのだろうが自己肯定感を上げていく教育を育んでいく都市であってほしいという意見もあった。

また、今回「都市像」という話があったが、実際子育てしている親からすれば、「佐世保市はこのような都市像にしたいです」というものに直結した子育てをしているかということ、必ずしもそうではない。「佐世保に住んで良かった」、「佐世保は子育てしやすい」という満足度を上げるところから、佐世保市の都市像につながっていくのではないかと思う。

## ○市民生活分野

### 【落合委員】

高齢者分野について主に意見交換があり、「外国人について」と「町内でいかに助け合っていくか」という2点が論点となった。

今後、介護分野等で外国人材の活用があるのであろうが、ある委員からは「すべての外国人というわけではないが、一部の者は無秩序で、日本文化を理解していない。そのような者を行政がどのように指導していくか」という意見があった。

また、6次総合計画を紐解けば、良いことがたくさん書いてあるが、社会状態がますます悪くなっていく中、いかにコミュニティのなかで方向性を示していくかが重要である。町内には、行事に参加できる人、できない人がいるけれども、できない人をどのように保護していくかということが直面する問題となっていく。町内会が基本となっていくということを庁内でも検討しているのだろうが、コミュニティの位置付け等、概ね10年間の計画である次期総合計画の中で、高齢者問題を若い世代、例えば学校とも連携して、学生に考えさせるということも必要だという意見があった。

また、町内会活動に参加する人が少なくなっているという現状において、いかに地域活性化を図るかという問題提起があった。そして、高齢者になってからということではなく、子どもの頃からの教育が必要であるという意見が出た。つまり、子どもの頃からの高齢者問題を考えさせることで、将来にわたる高齢者問題を解決する力をつけるということであり、例えば、高齢者施設にいつでも出入りできる環境をつくる等である。「健康寿命の延伸」ということがあるが、これこそまさに子どもの頃から教育しないといけない問題であろう。

都市像として「地域が社会を創る安心都市」という表現が使われているが、これは上から目線ではないかという意見があった。「地域が社会を創る」とはいかにも行政側の目線であるから、「自分たちが自分たちの地域を創っていくんだ」という表現に換える必要があるのではないかということだった。

また、介護分野の人材育成という意見交換も行った。外国人材も活用する必要があ

ろうし、民生委員・ボランティアの方々が協力し合う地域づくり・システムづくりが大切だ。

## ○都市基盤分野

### 【西岡委員】

基本構想に示されたひとつひとつのことを行ったからといって、人口ビジョンの目標である「23万人程度を維持」ということは、とても覚束ないだろうという思いがある。

全国の人口減少が進む中、長崎県北地域においては、より厳しい状況下で未来に臨んでいかなければならない。そして、「この地域でなければ」、「世界中どこに出しても恥ずかしくない」という先端的なものを、より輝かせていくという先にしか、未来はないと思う。

具体的にいうと、日本の中で海外に向かって一番開かれていたという「歴史性」と、それに培われてきた「文化性」という土壌がある。加えて、本市には「多様性」を受け入れる秀でた風土がある。それが、未来に向かって佐世保のまちを輝かせる可能性があるということ、野村総研も評価している。

そして、「地理的特性」として、中国、朝鮮半島とも近いという立地条件を活かしたまちづくりというものを謳うことが必要ではないか。

また、全国に地震が多発し、大型地震の襲来が近々予想されている中、歴史上大きな地震が起きていないという本市の特性をウリにしないまちづくりはありえないのではないかという意見があった。

このような、日本の中で超一級といわれる持ち味を前面に出していくということなくして、「23万人程度を維持」ということはいえないのではないか。

「多様性」を活かすということ、人口減少社会において、外国人材を受け入れるということについて根強い文化的な反発がある中、一步踏み出せるとしたら、それは長崎・佐世保ではないか。介護分野で人材が足りないのであれば、外国人材を積極的に受け入れ、「佐世保なら安心だ」、「佐世保は介護がとても充実している」といった特区のような地域の第1号として名乗りを上げたらどうだろう。将来誰でも歳をとるのであるから、将来安心な地域社会としての魅力を高めていくということが必要ではないか。

観光面でも、このように人材を受け入れることによって、未来に向かって輝いていくビジョンが構築できると思う。

様々な意見交換の中、都市像「西九州を牽引する『中心都市』」という表現について、「挑戦都市」や「実験都市」というものにしてはどうかという意見も出た。

### 【木村会長】

それでは、各分野の意見をまとめさせていただく。

経済分野では、まずは、人材確保が困難であるという現状があるということであった。また、経営面では長期的な見通しがなかなか難しいという中、短期・中期・長期といったスパンでの更に詳細な検証が必要だという意見が出た。そして、AIやIoT等

による職場環境の変化、つまり人材がいらなくなる時代の到来を踏んで検討を進めていく必要があるとのことであった。

人材分野においては、「子育て支援」について「母親」視点から検討していく必要があるのではないかという意見があった。また、自己肯定感を上げるような教育というのがひとつのキーワードとして挙げられた。

市民生活分野では、「高齢者」を中心に意見交換があったとのことであった。人手不足、人材不足といわれる中、要支援から要介護へ進む高齢者を支える人材をどう確保していくのか、外国人材の活用を検討していく必要があるのではないかということである。加えて、地域コミュニティによる支え合いが求められるとの意見もあった。

都市基盤分野では、佐世保市が持っている歴史性、文化性、多様性といった、他都市では見られない独自性があるとの意見があった。それを「日本の中で超一級といわれる持ち味」と表現されたのだが、そのような本市の魅力をもっと打ち出し、日本の最先端を走るような都市としての計画を立ててみてはどうかということであった。

事務局においては、本日の意見を踏まえ、さらに庁内で検討を重ねていくようお願いしたい。

以上で、議題については終了する。

#### 4. その他

##### 【池口主幹】

本日いただいたご意見を踏まえ、今後、庁内で協議・調整しながら、基本計画を策定していきたいと考えている。

また、次回の審議会につきましては、基本計画の策定状況をみながら、改めてご案内をさせていただくので、よろしくお願いしたい。

#### 5. 閉会

##### 【木村会長】

これをもって本日の審議会を閉会する。

以 上